

マダコの脱走を阻止しました

令和4年（2022年）10月28日、令和6年（2024年）3月6日のトピックスにて、マダコの種苗生産の取組みを報告しました。

その中で、「稚ダコが脱走を試みる様子がみられた（壁面を登って、水面から出てしまい、干からびてしまうので要注意です）」と説明したのですが、親になる大きなマダコの脱走はもっとダイナミックです。

研究中に偶然、その様子を観察できたので、ご紹介します。

親ダコを収容する水槽は500Lの円形黒色水槽を用いており、脱出防止用に水量は低くし、天井にネットを設置しています。その水槽に、タコつぼを1つ入れて1個体ずつ個別に飼育します。えさは、毎日カニやアサリを与えています。

今回の親ダコは1,737g（湿重量）で、収容して1か月ほどが経過し、ほとんどの時間をタコつぼ内で過ごしていましたが、急に壁面を登り始めました。



上から見た様子
腕を伸ばし、スルスルと登って
きています。



横から見た様子



横から見た様子
完全に水面から出ています。



上から見た様子
ネットを押し上げて、脱走しようとしています。
その後、水面に戻っていきま
した。

時間的には15秒ほどの出来事でしたが、マダコ 능력을垣間見ることができました。その後、この親ダコは産卵し、ふ化したタコは放流しました。

水産試験場では、今後も、ふ化ダコを効率的に得るための親ダコの飼育・産卵とふ化技術の開発を行うとともに、安定的な種苗生産ができるように技術開発を行っていく予定です。

この研究は、国立研究開発法人生物系特定産業技術研究支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて行ったものです。

(文責 原 佐登子)